

福島県学力調査の結果から 「国語科」、「算数・数学科」

学校教育課通信

平成27年2月27日(金) 第111号

編集・発行: 県南教育事務所 寺木 誠伸

福島県学力調査の県南域内の各教科の結果分析、その対策についてお知らせします。今回は「国語科」と「算数・数学科」です。



【国語科】

〔小学校〕

○大問4 「2つの『お知らせ』を読み取る」

- ねらい ▼ 与えられた情報から主旨をとらえ、それを最も適切に表現した見出しを選ぶことができる。
▼ 与えられた情報を対照し、目的に応じて整理しながら、適切な言葉を補うことができる。
▼ 情報を対照して、その違いを細部にわたってとらえ、特徴をつかむことができる。
→ 自分の伝えたい内容の中心を短い文章で表現したり、別な言葉や文に置き換えたりする言語活動の充実を図る。(箇条書きにする、見出しをつけるなど)
→ 二つの資料を読み比べ、共通点や相違点について考えたり、その違いからわかるよさなどを話し合ったりする。

○大問5 「『保健だより』と話し合いを読み取る」

- ねらい ▼ 話し合いのルールを踏まえて、発言の問題点をとらえ、指摘する言葉を適切に表現できる。
▼ 話し合いの流れをおさえ、発言者の意図をくみ取った上で、考えたことを適切に表現したものを選ぶことができる。
→ 話し合いの仕方や司会者の役割などについて理解が深められるよう、視聴覚機器を活用し音声表現の視覚化(文字や映像)を図る。
→ 内容を整理したり、順序を意識したりしながら話し合う活動を充実させる。

〔中学校〕

○大問4 「発表原稿の内容を読み取る」

- ねらい ▼ 発表原稿から書き手の意図をとらえて、それを自分の言葉で簡潔にまとめることができる。

○大問5 「新聞記事の投書の内容を読み比べる」

- ねらい ▼ 二つの投書の立場を理解し、一方の立場に立って根拠を明確にしながら、条件に従って反論を書くことができる。

○大問6 「作文」

- 文章と様々な資料とを比較検討しながら必要な情報を読み取っていくような学習を授業の中に意図的に位置付け、目的に応じて情報を正しく読み取る指導を充実させる。
・教科書に示された挿絵、写真、グラフ等の資料と本文との比較
・同じテーマを扱った本や新聞、雑誌、パンフレット等と比較検討
→ 説得力のある文章を書くために、賛否の立場を示すだけでなく、自分の体験や読書の経験などに基づいた具体例を挙げるなどして、自分の意見を分かりやすく書かせる取組も必要である。

〔指導のポイント〕

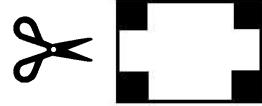
- 領域別に見ると、「読むこと」の正答率が低いので、文章の特徴を踏まえて読みの観点を明確にした読解指導を重視する必要がある。その際、長文を読んだり、複数の資料を読み比べたりすることも大切である。
- 思考力や表現力を高めるために、言葉や文章を言い換えたり、書き換えたりする言語活動を重視する。定着確認シートの中の問題なども活用する。
- 発達段階に応じて、インタビューやディベートなど、総合的に話したり、聞いたりする場面を適切に設定する。
- 「読むおもしろさ」や「表現する楽しさ」を体験させ、国語の力の変容が見えるような単元構成や評価のあり方を工夫するよう指導していく。
- 主体的に読書に関わる機会を意図的に設ける。単元の中で並行読書を行ったり、「家読」など家庭との連携を図ったりする。



[算数]

○大問14 「面積・体積・角」

- ねらい ▼ 式の表すものを理解し、言葉で表すことができる。
▼ 与えられた条件に合うかどうか正しく判断し、説明することができる。
→ 問題を解く上で計算式のみを書くだけではなく、式の意味や式を立てた理由についても書かせる指導を普段から大切にしていく必要がある。
→ 設問で問われていることについて、図をかいて考えることで見通すことができる。図は小さくならずに見やすい大きさでかくこともポイントである。



○大問16 「平均・単位量あたりの大きさ」

- ねらい ▼ 単位量当たりの値段を求めることができる。
▼ 問題の場面を理解し、単位量当たりの考えを使って、問題を解くことができる。
→ 身の回りにおける様々な数量について、単位量当たりの大きさを求める上で日常生活では扱わない数量（0.7円など）を理解できるような指導の工夫も必要である。
→ 問題の場面を理解し解決する力を身につける上で、体験を伴う教科の学習において算数を意識した活動を重視するなどの教科を横断した指導を充実することが望ましい。

[指導のポイント]

- すべての領域で基礎を問う出題における正答率が高い反面、活用に関する出題の正答率が著しく低い現状を踏まえて、日常生活における具体的な場面で、数理的な処理の必要性を実感できる授業の実践を充実する。
 - 「数量関係」においてグラフを正しく読み取り、根拠をもとに説明する活動を充実させる。
 - 比を活用して物事を処理する活動をするなど指導方法を工夫する。
- 問題文を的確に読み解する力の向上を目指した指導を充実させる。低学年から高学年に向けて学習の系統性を図るとともに、教科を横断して読み解き力の向上のための活動を推進する。



[数学]

○大問7 「平面図形・空間図形」

- ねらい ▼ 三角柱で、ある辺とねじれの位置にある辺をすべて選ぶことができる。
▼ 円柱と円柱にぴったり入る球の体積の関係について理解している。
→ 空間における直線と直線の位置関係において、交わる場合と平行である場合には、それによって一つの平面が決定され、その二つの直線は同一平面上にある。それ以外の場合はすべてねじれの位置にあることを授業で具体的に示して見せる指導を工夫する必要がある。
→ 球の体積の指導においては、球がちょうど入る円柱をもとに公式を導く方法が一般的である。単に公式の暗記を強調することのみに終始するのではなく、公式を導く過程の指導について具体物を用いて実感を伴いながら理解できる指導を充実させる必要がある。

○大問9 「資料の散らばりと代表値」

- ねらい ▼ 資料に極端な数値がある場合の代表値について理解している。
▼ 有効数字について理解し、ある距離の測定値を10の累乗を使った形に表すことができる。
→ 「資料の散らばりと代表値」の単元においては、年間計画に即して確実に指導する。特に、資料の傾向をヒストグラムや代表値から読み取る活動を充実する必要がある。
→ 測定値の扱いについて近似値と誤差の意味を数直線を用いて表すなどして、実感を伴って理解できるように指導を工夫する。また、10の累乗を使った数の表し方において、どの数字までが有効数字であるかを明確にできる指導を徹底する。

[指導のポイント]

- 関数については、特に表やグラフから関数関係を見い出すことに課題があり、「比例と反比例」および「1次関数」の単元において、2つの数量が関数関係にある場合の捉え方が身に付くように指導を充実させる。
 - ・今年度の定着確認シート（1年 第4回、2年 第3回・第4回）の活用を徹底させる。
- 資料の活用では、「資料の散らばりと代表値」の単元における基礎的な知識が定着していないため、単元における授業時間の確保と資料の活用における身近な事例での処理について確実に指導する。
- 図形では「空間図形」の単元における知識や立体の把握に課題がある。授業において立体のモデルを提示し、展開図や回転体について実感的に理解できる指導の工夫を図る。